

令和三年十月二十六日火曜日

十四時開演

司会 金田 美穂
(姫革)

解説 江崎欽次朗

能高砂

(金剛流)

シテ 住吉明神 尉 金剛 龍謹

ツレ 姥 宇高 徳成

ワキ 神主友成 宝生 欣哉

ワキツレ 従者 野口 琢弘

” ” 宝生 尚哉

アイ 高砂浦の者 茂山千五郎

笛 相原 一彦

小鼓 幸 正佳

大鼓 白坂 信行

太鼓 小寺真佐人

後見 金剛 永謹

廣田 幸稔

豊嶋 幸洋

地謡 今井 清隆

種田 道一

豊嶋 晃嗣

宇高 竜成

山田 伊純

■能《高砂》の物語

阿蘇宮の神主・友成が、都へ上る途中、播州の高砂浦で『古今和歌集』仮名序にも記された名所「相生の松」を詣でる。

そこで出会った老夫婦に、高砂と住ノ江は距離があるにも関わらず、なぜ「相生」(共に生きる意味)と呼ばれるのか尋ねると、夫婦は、実は自分たちも高砂と住ノ江に分かれて住んでおり、「たとえ山や川、距離を隔てたとしても、互いに心を通わせていれば、男女・夫婦の仲は決して遠くはない」と語り、松ですら相生というのだから、人間も相生の夫婦になれると説く。

そして、更に深い謂れとして、「高砂」とは最古の和歌集『万葉集』の比喩で、「住吉(住ノ江と同じ意味)」とは延喜の御代(十世紀初め)醍醐天皇の時代に編纂された『古今和歌集』の意味だと説く。つまり、高砂・住ノ江に共通する「松」とは、和歌集に集められた言の葉(和歌)のたとえであり、文化の繁栄こそが、国の太平を支えているのだと示す。

その後、尉が松の葉をかき集める所作を行うが、これは「言の葉」を集めること＝国家による勅撰和歌集編纂の比喩である。

友成が老夫婦の気高い様子に驚いていると、二人は「実は我々は高砂・住ノ江の神の化身である」と明かし、住吉で待つと告げて沖へと消えた。

友成は日の出とともに高砂の浦から新しい舟で住ノ江へ向かうと、波間から住吉明神が出現し、千秋万歳を祝って颯爽と舞うのだった。

「高砂」という言葉が持つめでたさの謂れの能が、そのゆかり地である高砂神社にて、金剛流宗家父子を始め東京や京都、九州など各地の能楽師が集って演じられる貴重な機会です。

また、かつて姫路藩の名産であった「高砂染」を復興した狂言装束を初めて用います。是非ともご覧ください。

▶ハローキティー能《高砂》クリアファイルが完成



[A4サイズ、1冊330円(税込)]

クリアファイルで、ハローキティーと能《高砂》がコラボレーションしました。当日会場にて販売します。(数量限定)

高砂染とは

江戸時代、山陽道の要衝を固める大藩・姫路藩が、その領地内に高砂を含むことから、徳川幕府に献上するため興した特別な染め物。

高砂の「相生の松」をモチーフに松の葉や松かさ、尉の持つサラエ(熊手)、姥の持つ竹箒などをあしらうことで能《高砂》に由来する「ことほぎ」の精神が込められています。

▶会場 高砂神社能舞台「神遊殿」
〒676-0043 兵庫県高砂市高砂町東宮町190
山陽電鉄「高砂」駅から徒歩15分 タクシーで5分

▶チケット代 全席4,000円

▶お申し込み・お問い合わせ

一般社団法人 高砂市観光交流ビューロー
〒676-0041 兵庫県高砂市高砂町今津町533-1
TEL 079-441-8076 / FAX 079-441-8077
e-mail heart-city@takasago-tavb.com

一般社団法人 江崎福王会
e-mail comomo4sai@yahoo.co.jp

▶主催 一般社団法人 江崎福王会
▶共催 高砂神社・一般社団法人 高砂観光交流ビューロー